



裏山②

校長 安達 修久

9月末になってやっと、空気にわずかず涼しさが感じられるようになり、校庭で遊んだり体育を行ったりすることができるようになってきました。予定より2週間ほど遅れて、各学年で短距離走のタイム計測を終え、運動会に向けた赤白や係分担を決めることができました。その中で150周年記念運動会に向けて、子どもたちの意気込みが高まっている様子がかがえました。当日は、1人1人めあてをもって力いっぱい運動会に臨む姿が見られることと思います。

夏休みが明けてからも強い日差しと暑さのため、休み時間に外遊びができない日が数多くありました。その際に木陰のたくさんある裏山は、熱中症指数が極端に上がりすぎないので、子どもたちが過ごせる憩いの場になりました。起伏に富んだ階段の道を歩いたり、頂上の四阿に集まったりする子どもたちは、散策するだけでとてもご機嫌で楽しげでした。秋が近づき地面にドングリの実がこぼれていて、拾って四阿のテーブルに集めるのも、この場所ならではの楽しみだったようです。

さて私は、150周年にちなみ今年度の学校だよりを、本校の歴史をひもといてうけとめ、そこでわかったことをこの場で広く皆様につたえ、これから先もともにあゆむための一歩にしたいと考えて書き進めてきました。今月は、7月にも話題にした裏山についてまたお伝えします。(学校教育目標「たのしいわたしの学校～うけとめ つたえ ともにあゆむ」)

歴史ある本校の書庫に古い文書が残されていて、表紙には「昭和三十五年四月 学校林に関する記録」と書いてありました。中を見ると、この学校林というのが裏山のことのようです。手書きの達筆で記された記録によれば、おおまかにまとめて

- ① 裏山は昭和14年に地域の方から、学校林として教育活動のために寄付されたが、様々な面を考慮して手子神社の所有地とした。
- ② 戦時中に、旧日本海軍の土地となった。
- ③ 戦後、大蔵省(当時)が管理する国の土地となった。
- ④ 学校の土地とするよう、PTAが中心となって横浜市長に願い出た。



とありました。また、昭和37年8月の日付がある横浜市長への陳情書には、広いとは言えない校庭に加えてこの学校林があることで、子どもたちの活動が豊かになるであろうこと、近隣の宅地化に伴い学校林が失われなようにしたいこと、今後児童数が増えることが予想されるので、少しでも広い活動場所を残したいことなど、保護者・地域の方々の学校や子どもたちへの思いが綴られていました。

その後この学校林がどうなったのか、明確な記録は見つけれませんでした。しかし学校の主な出来事を記した「学校沿革」という冊子の、昭和41年1月の記録に、「学校裏山用地の境界について、市用地課、PTA、〇〇建設、立ち会う」とあるので、めでたく本校の裏山となって、土地の境界を確認したのだと思われました。

「裏山を学校林として残したい」と努力してくださった保護者・地域の方々の熱い思いは、今の子どもたちに十分伝わっているのではないのでしょうか。裏山で楽しく過ごし、代々1年生に学校の自慢として伝えている姿に、とてもよく表れていると思います。